

## 第53回

### パリ五輪 団体球技男子日本代表

※2024年6月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

パリ・オリンピックは26日、開幕まで残り1カ月となった。豊富な経験に裏打ちされたベテランが気迫をみなぎらせれば、初出場の若手は物おじせずに大舞台へ挑む。久方ぶりに出場切符を勝ち得た団体球技は「和」の力を発揮しようと、鍛錬にいそしんでいる。

バレーボール男子の盛り上がり  
が顕著だが、他も負けてはいない。  
特に長年、自力で五輪出場や上位  
進出が途絶えていた男子チームス  
ポーツが重い扉をこじ開け、本番  
に向けて息を合わせている。

筆頭はバスケットボール男子だ  
ろう。昨夏に日本を含む3カ国共  
催となったワールドカップ(W杯)  
では、フィンランドを破って欧州  
勢から初白星を挙げるなど快進撃

を続け、アジア最上位で五輪の出  
場権を獲得。1976年モントリ  
オール大会以来、48年ぶりとなる  
自力での五輪切符だ。

チームを率いるトム・ホーバス  
監督は東京大会で女子を銀メダル  
に導いた。歯に絹着せぬ物言いな  
がらも、積極的に日本語でコミュ  
ニケーションを図って自身の考え  
を浸透させる方針は男子でも変わ  
らない。パリでは8強入りを目標  
に掲げている。

東京大会前には開催国枠での出  
場について、国際連盟(FIFA)  
から競技力向上を求められたこと  
もあったが、年々、確実に力をつ  
けていることは間違いない。20  
16年に始まったBリーグに米プ  
ロバスケットボール協会(NBA)

でプレー経験のある選手が次々と参戦するなど、国内リーグを充実させたことで強化の下地を作ってきたことも大きい。

W杯はNBAの名門レーカーズでプレーする八村類選手が不在だった。今五輪では「水の都」で化学反応を起こした日本の姿が期待できそうだ。



「彗星<sup>すいせい</sup>JAPAN」の愛称で親しまれるハンドボール男子日本代表は昨年10月のアジア予選で1位となり、自力では88年ソウル大会以来、26年ぶりの五輪出場権を獲得した。

開催国枠で出場した東京大会は1勝4敗で11位だったことから、チーム一丸となってさらなる高みを目指す——はずだったが、今年2月に17年からチームを率いていたダグル・シグルドソン氏が突如辞任。東江雄斗主将（ジークスタ―東京）は「受け止めるのに時間かかりました」と困惑気味に振り返る。

パリ大会初戦の相手が、そのシグルドソン氏が就任したクロアチアに決まったのだから、心中穏やかではない。日本代表の新監督に就任したカルロス・オルテガ氏はかつて日本を率いていた経験があるとはいえ、5月に来日したばかり。急ピッチでチーム作りを進めていくことは必死となるが、選手全員、前を向いている。「初戦からワクワクしますね。日本の最大の良さを引き出して勝ちたい」（東江主将）。まずは宿敵と全力でぶつかり、新たな歴史を刻んでいく。



昨年の広州アジア大会で53年ぶりの優勝を果たした水球男子は、初出場した32年ロサンゼルス五輪以来となる悲願のメダル獲得を目指している。

14日に千葉県国際総合水泳場で開催された壮行会では、代表選手が元日本代表OBらで構成された「ドリームチーム」と対戦。ドリームチームを率いたのが俳優で元水球選手の吉川晃司さんという話

題性もあって、会場には日本水連関係者も「記憶にない」という約3500人が集まった。

多くの人が初めて水球を観戦する状況だったが、スピード感あふれる試合展開に場内は熱狂。日本代表が得意とする切り替えの素早いカウンター攻撃で得点を重ねて18―13で勝利し、本番の弾みをつけた。

開催国枠で出場した21年の東京五輪では37年ぶりの白星を挙げた。鈴木透生主将（サコス）は「水球の知名度を上げるためにも、パリではメダルを目標に頑張っていく」と力強い。「ポセイドンジャパン」の愛称で親しまれる日本代表は、欧州の強豪を丸のみにする覚悟だ。